

薬 剤 部

1 構 成 員

	平成15年3月31日現在
教授	1人
助教授	0人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技官（教務職員を含む）	16人
その他（技術補佐員等）	1人
合 計	18人

2 教官の異動状況

橋本 久邦（教授）（H6. 4. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成14年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	3編（1編）
そのインパクトファクターの合計	2.49
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	1編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	3編（3編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0.00

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. K. Matsumoto, H Hayakawa, K Ide, T Suda, L Chida, H Hashimoto, A Satoh, H Nakamura. Effects of suplatast tosilate on cytokine profile of bronchoalveolar cells in allergic inflammation of the lung. *Respirology*. 7, 201-207, 2002
2. 橋本久邦, 鈴木吉成, 西川三喜男：総合情報ネットワークシステム（Host net）による情報

提供システム, 日本薬剤師会雑誌, 55, 89-92, 2003.

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Suzuki Y, Takagi Y, Nakamura R, Hashimoto H, Umemura K: Ability of NMDA and non-NMDA receptor antagonists to inhibit cerebral ischemic damage in aged rats, Brain research, 964, 116-120, 2003.

インパクトファクターの小計 [2.489]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 内田信也, 橋本久邦, 小菅和仁, 渡邊裕司, 大橋京一: 薬物の体内動態および反応性に関連する遺伝子検査実施についての調査, 臨床薬理, 34, 127S-128S, 2003.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 橋本久邦, 後藤亜耶乃: 薬物間相互作用と副作用, 51, 1487-1516, 2002.
2. 橋本久邦: CRC活動の現状と今後(1), 薬事新報, 2217, 619-620, 2003.
3. 橋本久邦: CRC活動の現状と今後(2), 薬事新報, 2218, 644-645, 2003

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共

同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成14年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成14年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件（ 万円）
(2) 厚生科学研究費	1件（ 50万円）
(3) 他政府機関による研究助成	0件（ 万円）
(4) 財団助成金	0件（ 万円）
(5) 受託研究または共同研究	0件（ 万円）
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	6件（ 230万円）

(2) 厚生科学研究費

遺伝子多型情報のシステム化

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	1件
(3) 学会座長回数	0件	1件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	2件	

(1) 国際会議等開催・参加：

4) 一般発表

ポスター発表

1. Hirano K, Yamada S, Kimura R, Sugimoto Y, Yamada J, Uchida S, Kato Y, Hashimoto H: Relationship among brain serotonin transporter binding, plasma concentration and behavioral effect of selective serotonin reuptake inhibitors (SSRIs), XIVth World Congress of Pharmacology, July 2002, San Francisco, USA.
2. Nakamura R, Umemura K, Hashimoto H, Urano T: Comparison of the effects of low molecular weight- and unfractionated- heparin on neutralization of PAI-1 activity by activated coagulation factors, 16th International Congress on Fibrinolysis and Proteolysis in conjunction, September 2002, Munich, Germany.

(2) 国内学会の開催・参加

2) シンポジウム発表

薬剤師学術大会東海支部大会

3) 座長をした学会名

日本薬学会東海支部大会

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

9 共同研究の実施状況

	平成14年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	4件
(3) 学内共同研究	5件

(2) 国内共同研究

1. フレカイニドの体内動態と薬効，その個体間変動に関する研究
2. 抗MRSA薬の薬物動態解析ソフトの開発
3. 医薬品集の電子化システムの開発
4. 注射薬情報提供システムの開発

(3) 学内共同研究

1. 抗不整脈剤の体内動態と薬効，その個体間変動に関する研究（薬剤部，臨床薬理学，内科第3）

2. 免疫抑制薬の血中薬物治療モニタリングの方法に関する研究（薬剤部，泌尿器科学，内科第3）
3. 免疫抑制剤の体内動態と薬物代謝酵素の遺伝的多型性の関連（薬剤部，泌尿器科，内科第3，臨床薬理）
4. 活性化血液凝固因子によるplasminogen activator inhibitor-1 (PAI-1) 中和活性に対する未分画Heparinと低分子量Heparinの影響の違いについて．（薬剤部，第2生理，薬理）
5. カルバペネム系薬の抗緑膿菌活性に対する塩基性アミノ酸の影響．（薬剤部，検査部）

10 産学共同研究

	平成14年度
産学共同研究	0件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 抗不整脈剤の体内動態と薬効，その個体間変動に関する研究

クラスI抗不整脈剤の迅速な測定法を開発し，服用患者の血中濃度もモニタリングに使用している。治療域と考えられる濃度をはずれる患者が少なからず見られる。体内動態の変動要因の解析，血中濃度を効果の関連を検討する必要があることが示された。

（薬剤部，内科学第3，臨床薬理学）

2. 免疫抑制薬の血中薬物治療モニタリングの方法に関する研究：

腎移植や骨髄移植後の免疫抑制剤の投与設計には血中薬物治療モニタリングが重要である。本研究では服薬後のどの時間の血中濃度を測定することが最も効果的であるかを検討した。腎移植患者ではシクロスポリンの新製剤のネオ-ラルでは服薬2時間後値がAUCを最も良く反映することから，血中薬物治療モニタリングには服薬2時間値が使用するのがよい。しかし，骨髄移植患者では吸収が遅延するため，腎移植患者とはことなる測定時間の設定が必要である。

（薬剤部，泌尿器科学，内科学第3）

3. 免疫抑制剤の体内動態と薬物代謝酵素の遺伝的多型性の関連：

シクロスポリンの体内動態とP-糖蛋白の遺伝的多型性の関連を検討している。これまでの結果ではC3435Tの変異は体内動態に明かな影響はないようである。現在他部位の変異の影響を調べている。

（薬剤部，泌尿器科学，内科学第3，臨床薬理学）

4. 活性化血液凝固因子によるplasminogen activator inhibitor-1 (PAI-1) 中和活性に対する未分画Heparinと低分子量Heparinの影響の違いについて：

活性化血液凝固因子によるPAI-1中和反応（線溶系亢進）に対する未分画Heparin (U-hepa) と低

分子量Heparin (L-hepa) の影響を比較検討し、両薬物の線溶系異常亢進に対する作用が異なる原因について考察した。その結果、U-hepaがL-hepaより強力にXaおよびThrombinのPAI-1活性中和反応を増強することが、U-hepaがより線溶系を亢進する一因になっている可能性を示した。

(中村龍太, 梅村和夫¹, 浦野哲盟², 橋本久邦) ¹薬理学講座 ²生理学第2講座

5. 医薬品集の電子化システムの開発：

Microsoft Accessを使った医薬品集を県内の病院と協力して開発している。プログラムが出来たので、現在協力病院の採用品目に対応した医薬品集を作成中である。

(薬剤部, 静岡県内の病院)

13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

15 新聞, 雑誌等による報道